

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0041 福岡市中央区大名
1-10-25 上村第2ビル603号室
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.122

2014年12月11日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 騎士と牧夫／画・甲斐大策

食糧危機とオレンジの花

中村 哲

誰もが完成すると思っていた……

アジュマル

24時間オープン診療所

ハフィズラー

門衛から事務職に

アブドゥル・アハッド

ワーカーOB近況報告 索漠とした世に一服の清水を

石橋忠明

●カラー特集 砂漠が緑に!! 収穫の季節到来

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

食糧危機とオレンジの花

— PMS・住民・行政が一体となって体当り工事

PMS（平和医療団・日本）総院長／ベシャワール会現地代表

中村 哲

二つの取水堰の工事

みなさん、お元気でしょうか。日本は年の瀬の選挙だと聞きましたが、遠い遠い出来事のように思えます。

ここアフガニスタンのジャララバードでは、外国軍の撤退に伴って、少しずつ治安回復の兆しも見え、仕事は例年以上に活発に続けられています。

この季節はいつものように川辺で、護岸と堰せきの工事が進んでいます。昨年のカシコートⅡマルワリード連続堰の建設が「緑の大地計画」の頂点だと伝えたものの、自然はヤワなものではありませんでした。

現在、ジャララバードの北部にあるミラーン（ベスード第二堰）、シギというところ、二つの取水堰の建設に追われています。

大きな工事は「ミラーン」で、ベスード郡三五〇〇ヘクタールのうち、約一一〇〇ヘクタールを潤します。先に完工したベスード第一堰（二〇一二年）二千ヘクタールと併せると、これで同郡の八割以上をカバーすることができそうです。

シギ堰については、先の会報で触れたように、昨年の大洪水で取水口から約三kmまでの流域が、河の藻屑と化して消滅しました。現在、旧取水口から五km下流の地点に「新シギ堰」を建設中です。

両堰が成れば、「緑の大地計画」で予定するジャララバード北部穀倉地帯一六五〇〇ヘクタールのうち、約九〇%の安定灌漑を達成することになり、実現に向けて大きな前進となります。

二つの大きな工事を抱える羽目となりましたが、PMS（平和医療団・日本）職員・



ミラーン取水堰着工式で、正装用ターバンを戴く中村医師

作業員一同、はつらつと働いています。

しかし、二つの場所での同時作業は、今冬が初めてです。これを可能にしたのは、PMS全体が技術的な練度が高く、現場を任せられる人材が育ってきていることがあります。また、地域農民の圧倒的な支持と地方行政の好意的な協力が背景にあります。

農村の復活に欠かせない「安定灌漑」の重要性については、先の会報で詳しく触れます。



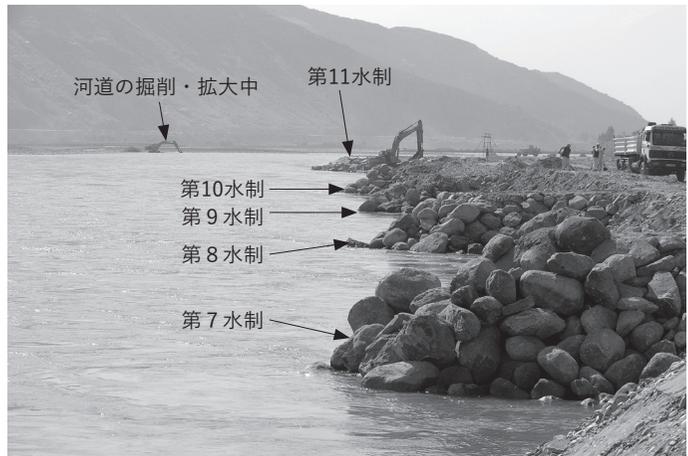
た通りです。WFP(国連・世界食糧計画)は、アフガンが世界最悪の食料危機に直面し、現在国民の三分の一に相当する七六〇万人が飢餓線上にあると警鐘を鳴らしています。私たちもまた、食料自給がアフガンの生命線と見て、各方面と協力し、最悪の事態を乗り切る実例としたいと思います。

予想外の消滅と浸食

しかし、取水堰は大自然が相手で、こち



日に日に浸食が進み流失するミラーン地域の農地。左に稲が見える



ミラーン村落保護。護岸600mまでは50m間隔で石出し水制(計12基)を置き、下流では高水敷に堤防を置き、越流型水制で保護する

らの希望通りにはいきません。特にミラーン取水堰の建設は、我々でさえ予測できぬ事態の連続です。

一〇月に着工した際、今年七月に最後の調査をした折に観察された場所が消滅しているではありませんか。新たな河道が発生し、予定した取水口から約一三〇mが、河の一部となり、目前で村落の浸食が進んでいました。この間わずか三カ月で、大した洪水もなく、楽観的にさえ考えていたので



ミラーンの現場は視認できる手頃な高台がないので、急ぎょ作業範囲全体1.2kmが見渡せる5mのやぐらを組んだ

す。

交通路である護岸も倒壊したり、浸食されたりで、予定作業地に近づけません。これには驚きました。最終的に護岸線を約二・五kmとし、取水口建設予定地まで一・四kmの護岸交通路確保を天王山と見て、全力が傾注されました。

この間、村民の死者・行方不明五名、目の前で村落が崩されていきました。やっと交通路が確保され、護岸工事の基礎が始め



干ばつ被災地から移植後6ヶ月。ガンペリ農場オレンジ園の現在 (2014年10月末)



今年完成したカシコト取水門。PMSでは、①河道全面石張り式斜め堰、②二重堰板方式の取水門、③蛇籠工・柳枝工による主幹水路、④調節池 (沈砂池、堰板式の送水門、底水をさらうスライド式排水門)を一連の「取水システム」とし、将来クナル河流域やカプール河本川で拡大する方針



各取水門にはめ込まれた石板。上記の取水システムは地元勢の強い要望で「中村方式」とされた

られたのは一二月も下旬のことでした。記録的な超突貫工事で、PMS・住民・行政が一体となったの体当たり工事で、交通路が確保された時は、みな虚脱状態でした。しかし、自然が与える時間は限られています。増水の始まる二月下旬には主な見通しをつけておかねばなりません。へとへとになった職員たちを叱咤激励し、やっと取水堰・取水門の着工に至り、現在、着々と仕事が進められています。「見通し」とはよく言ったもので、取水堰

が着工すると、工事の全体像が皆に見えるようになり、元気が出てきます。取り込んだ水の扱いは、何とかなるからです。工事の山は去りつつあり、一同元気を取り戻しています。一時は絶望視する向きもあったのです。

オレンジの花・詩会

悲壮な出来事ばかりではありません。来年の「オレンジの花・詩会」開催が、ガンペリ農場で決まりそうです。この詩会は、

数百年前からずっと続いてきた文化行事です。パシウトウ人は皆、詩が好きです。南部カンダハルの「ざくろの花・詩会」と並んで、ジャララバードの詩会が有名で、詩人たちが花の季節に集い、詩を朗読し合います。

これは身分や貧富、地域・国境どころか、政府・反政府という立場も超えるもので、政治性が全くないものです。即興詩の掛け合いという点で、昔の日本の和歌に似ています。パキスタン側のペシャワールやワジ



今年カンレイ村に設置した直径6mの揚水水車2号機。用水路底から5.2m汲み上げ灌漑する

リストンからも人々が集います。読み書きができないことさえ問題になりません。でも背景には、私たちが訴え続けてきた干ばつ問題があります。かつてジャララバードの早春の象徴であった柑橘類が絶滅に近く、近年、開催が危ぶまれるようになっていました。そこで、開拓地・ガンベリ農場を柑橘類の一大出荷地とし、復活の象徴としようということです。現在約五千本の苗が移植されていて、最終的に数万本をめざしています。

レシャード先生の訪問

先日、珍しいお客さんが現地を訪問されました。四五年間日本に在住するアフガン人医師のレシャード先生です。アフガンの荒廃に胸を痛め、静岡で「カレーズの会」を主宰しておられます。お父上が有名なカンドハルの詩人だということが分かり、一同最大の尊敬でお迎えしました。

詩会開催の話の話を聞くと目を輝かされ、すっかり緑に包まれたガンベリ「沙漠」を、いつまでも眺めておられました。

悲惨なこともありませんが、心温まる出来事もあります。少なくとも、現地事業には希望があります。飢餓と戦乱の中でひと時の人間らしさを味わえる文化的な空間があります。それは大地に根ざす悠久の流れと一体で、今後も変わらないものの一つでしょう。

皆さんの変わらぬ支えでここまで来られたことを、心から感謝します。

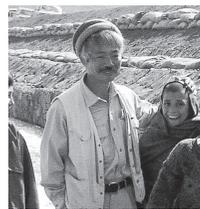
人はパンのみにて生きるにあらず。冬の河川工事は厳しいですが、それが人々の物心両面に潤いをもたらすと思えば、ずいぶんと励みになります。

良いクリスマスと正月をお迎えください。

二〇一四年十二月

ジャララバードにて

※前号で予告しておりました中村医師の連載は次号より再開の予定です。



中村 哲^{なかつむら てる}九州大学
医学部卒。専門は
神経内科（現地では
内科・外科もこなす）。
国内の病院勤務を経て、一

九八四年パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをペシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレーズの復旧。作業地千六百カ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通した。ダラエヌール診療所の年間診療数約五万二千人（二〇一三年度）。

【カラー特集】 砂漠が緑に!! 収穫の季節到来



脱穀風景。農場の一角に設けた作業場で(2014年5月18日)



とれた小麦はふっくらとして香ばしい。今年は職員とその家族全員に給付された



ガンベリ農場の乳牛は現在10月に生まれた子牛と、新たに加わった親牛をあわせ13頭になった



絞った乳で作ったチーズ。牛乳やヨーグルトを生産できるようになりつつある



間もなく完成予定のガンベリ記念塔(旧司令塔)。高さ13メートルで、「PMSガンベリ事務所」となり、開拓の中心となる



上記記念塔からの眺め。ガンベリ沙漠は今や森が迫り、豊かな自然の幸を堪能しつつあります。しかし開墾はこれからで、数年以内に地域とPMSの完全自給を達成する予定



PMSガンベリ農場のレタス、大根、カブ、カリフラワー。一部の野菜以外は自給できるようになってきた



マルワリード用水路開通から4年、年々活況を増すシェイワの日曜バザール。家畜が主に取引されるが、アイスクリームや駄菓子、おもちゃ売りなども混じっている

◎現地スタッフからの便り

誰もが完成すると
思っていたいなかった……

PMS農業事業責任者

アジュマル

私は、モハマッドグルの息子でアジュマルと申します。ナンガラハル州ソルフロッド郡カクラク村の出身です。クズクナール郡のマルワリード用水路の現場技師として二〇〇三年にPMSに参加しました。

この用水路の建設を開始した当初は、誰もがこの用水路が完成することはないだろうと思っていました。しかし、我々は用水路建設の野心を捨てることなく工事を続けました。中村先生や日本人専門家そしてアフガン人技師たちの指導と助言のもと、私や地域の作業員たちは用水路建設工事を継続しました。日々工事が進捗していくうちに、誰もがこのプロジェクトは成功すると思ふようになっていきました。

用水路の数キロ部分が完成した後、私は日本から来た神戸さんと植樹部門に携わることになりました。先ず最初に行ったの

は、成長する柳の根でマルワリード用水路の地盤を固めることで、水路両壁に柳（コリヤナギ）の挿し木をしました。

植樹担当になって以降、用水路「E」地点から最終地T地区の端までの水路両壁に柳を植えました。また鉄砲水による土壌浸食と洪水被害から用水路を守るために用水路周辺にオリーブとユーカリの樹林を造りました。他にも桑やビエラなどを植えました。

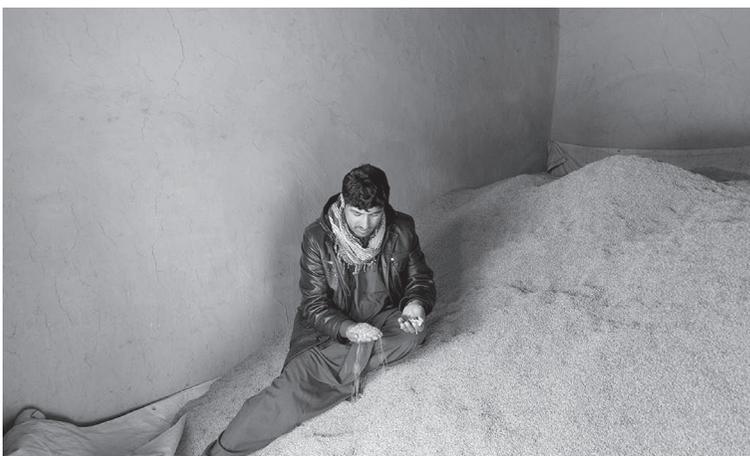
二〇〇八年には中村先生の指導の下、日本人ワーカー藤澤さんに協力して頂いて植樹用の育苗所を作り苗木を育てるとともに、多くの現地の植樹班の作業員もここで指導しました。

そして二〇〇九年、中村先生とジアウルラフマン先生（PMS副院長・ジャララバード事務所所長）の指示の下、幅二〇〇×三〇〇m、長さ約六km、総計一五〇ヘクタールの人工林を作つて砂嵐や季節風から土壌を守るようにしました。これにより何千ヘクタールもの土地と何千もの家族が危険から守られるようになりました。

この他にも六ヘクタールにおよびエラのエラを作つてミツバチを飼育しています。またガンベリ沙漠にも広大な農地を開墾

し、農場内に交通路を敷設し、給排水路を掘りました。土壌のサンプルをラボでテストしたところpH値が高くて土地が痩せていると分かり、土壌改良のために緑肥が必要だということになりました。

二〇一二年にはオレンジ・レモン・橙・グレープフルーツ・ざくろなどの果樹園を作ることができました。この果樹園は貧しい人たちに働き口を提供することもできま



収穫した米を手に顔をほころばす。アジュマル責任者は農学部出身

した。さらに六ヘクタールあまりのオリブ果樹園や公園も作り、沢山の人が憩える場を提供しています。

同様に、PMSが改修・新設した既存用水路のシエイワ、カシマバード(ベスード)、カマI、カマII、カシコート取水口にも柳の苗木を植えて土壌浸食防止策を施しています。PMS取水口建設で洪水被害対策がなされると、洪水を恐れて他所に避難していた沢山の住民が戻ってきました(既存用水路は取水口で一旦河の水を全てとりこみ、過剰な水を途中で水路壁を低くしたところから捨てて排水するしくみのため洪水が村に流入していません)。水が引けるようになった地域では家畜の飼育も出来るようになり、市場に食料が沢山並ぶようになりました。

収穫量が落ちていたサトウキビも植えました。マルワリード用水路建設によって、干ばつのために隣国に移っていた住民が故郷の村に帰還し、農地で耕作をするようになりました。用水路の建設現場で働く機会を得た人々は家族に食料を買えるようになり、不毛となっていた土地では農作物が収穫できるようになりました。

こうなる前には、水不足で命を落とした人々もいましたが、偉大なるアツラー(神)のお恵みによって、今では沢山の人が家畜を飼い、魚の養殖や養鶏が出来るようになった。

り、生活が大幅に改善しました。住民は皆、このことに喜びを感じ、農地で作物を育てる意欲を燃やしています。

二四時間オープンの診療所

PMSダラエメール診療所・医師

ハフィズラー

皆さん、こんにちは！

私はドクター・ハフィズラーと申します。

ナンガラハル医学校卒のPMS職員です。

医師としてPMSに職を得て以来、これまでいくつかの場所で勤務してきました。

まず二〇〇五年九月一六日にベシャワールのPMS病院に迎え入れられました。わずか一五日でダラエメール診療所に派遣され、そこで一カ月間勤務しました。その後ベシャワールの本病院に戻りましたが、医師の数が多かったのです。ある時は本病院勤務、ある時は診療所のあるチトラルでフイーロド勤務に就いていました。チトラル地方はとても寒くて冬には行けない程なのですが、現地に居る時に橋が壊れて二カ月

私自身の生活も大幅に改善し、私はPMSジャパンで働けることを大きな喜びに感じています。

滞在する羽目になりました。その後二〇〇七年七月二五日にダラエメール常駐となりました。

では、ダラエメール診療所での活動について少しお話ししましょう。

我々のクリニックは二四時間開業しており、以下のような活動を行っています。

まず朝の点呼の後に引き継ぎ報告をし、患者への保健教育を行ってから外来診療と続きます。

(1) 外来診療

外来診療は朝八時に開始し、午後一時に終了します。外来には二人の担当医師がおり、私の上司であるドクターサーブ・ハミドラーは一日に平均一六〇人から一八〇人の患者を診察します。ダラエメール診療所では季節によって異なりますが、多くの共通の病気が見られます。例えば夏期はマラリア、リーシュマニア症、急性の水様性下痢など、冬期は咳、風邪、急性呼吸器感染症などが多くなります。また病気が大発生することもあり、これまでコレラとはしかの大流行に直面しました。しかし幸いなことに、死者を出すこともなく数日で病気を

抑えることが出来ました。これについてはジャララバード公衆衛生局から感謝状を頂きました。

(2)検査室

検査技師は二人おり、どちらも現場の経験が豊富で仕事熱心です。検便・検尿・MP（マラリア原虫検査）・総肺気量検査・B型肝炎・血沈検査・AFB（抗酸菌）喀痰検査などを行っています。

(3)ワクチン

ワクチン担当者は二人いましたが、残念ながら一人になってしまいました。本診療所では以下のワクチンを投与しています。

- ・五歳以下の幼児にBCG、経口ポリオワクチン・はしか・ジフテリア、百日咳、破傷風、B型肝炎など。
- ・妊娠可能年齢の女性対象の破傷風ワクチン

(4)その他

妊娠・出産分野に従事する助産婦を対象

とした教育（家族計画や妊婦管理・産後ケア等）

看護師は二名おり、患者の手当、投薬や小外科処置を行っています。

二〇〇七年当時と比較すると、当診療所はワクチン、助産婦プログラム、結核診断治療など改善した点が沢山あります。

最後に、アフガン人の一人として日本の皆様に感謝を申し上げたいと思います。

そしてこれからも私たちがへの友情を持ち続け、貧しいアフガニスタンの人々への支援を続けてくださることを願っています。有り難うございました。

▼郵送方法の変更について▼

*一部地域の方々へは発送代行業者を通して別納郵送しております。差出人欄に代行業者名が記載されますのでご了承下さい。

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む
中村哲 用水路建設事業の7年をつづった感動の記録 【5刷】1800円

逆境で診る逆境から見る

【3刷】1800円

医者 井戸を掘る

【12刷】1800円

医は国境を越えて

【6刷】2000円

ダラエ・ヌールへの道

【5刷】2000円

ベシヤワールにて

【8刷】1800円

アフガン 高橋修・編著
農業支援奮闘記

農業計画6年余の失敗と成功を記した貴重な記録 2500円

聖愚者 甲斐大策の物語 1800円



石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24 電話092(714)4838

人は愛するに足り、
真心は信ずるに足る

アフガンとの約束

中村哲／澤地久枝(聞き手)

2000円

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 電話03(5210)4000

価格はすべて本体価格(税別)です

アフガル・バハエル！(良い旅を)

甲斐大策

騎士と牧夫

アフガニスタン北東部、カラフガンのトルクメンを統べる九十歳の大長老ティムランの孫三兄弟はこの日、クンドゥズでの大ブズカシに参加する驛馬の、普段は馬丁に委ねる脚慣らしに出た。兄弟達は、米、小麦、棉花、メロンの生産と出荷を仕切る家業の一方で、馬を育て鍛え、騎乗しては全土に名高いブズカシの騎士、チャパンダズでもある。長兄は四十五歳、今冬の試合後に引退する。

冷たい風が渡る丘の稜線に羊群が現れ、そこを黒い粗布をまとった、兄弟達とは互いに顔見知りのクルグズの牧夫が来る。

「アツサラーム、……………ババは？」

馬上の長兄が投げかけた挨拶と問いに、牧夫の唇がサラームと動いて答礼、次いで右腕を高々と伸ばし中天を指差す。牧夫の父、他界を納得した長兄は、胸の前に両掌を捧げて哀悼の意を示し、第二人もそれに倣った。

牧夫の一族がワハンの山から降りて来る、それは秋の終り、峰々の雪が裾を上げブズカシの始まる時期、とクルグズ達を眺めてきた。

若い日の父に大長老が咬いたものだった。

「クルグズは悲しい……………」

二十世紀初め、ボルシエヴィキが齎した中央アジアの混乱が弾き出し、拠所もなくさすらって後ワハンの谷に入った、そんな人々の行方を見えない悲しみを語ったのだった。

騎士は言葉少ない。牧夫もまた寡黙である。同じトルコ系の血の意識をこさらに考えたことはなく、人々の近代史も大長老の言葉も知らない兄弟達ではあるが晩秋、山から降りて来る人々に冬の到来を見る度に、無事を祈念する心があった。

「バハエル(神の恵みを)！」

大声で別れを告げると長兄は、馬首を斜面の下へ向け、第二人も従う。

鶴が啼きながら、細い雲がたなびく空を横切っていた。

註(1)ブズカシ……羊や仔牛を奪い合う騎馬戦
(2)「キルギス」は間違った呼称。

門衛から事務職に

PMSジャラバード事務所職員

アブドゥル・アハッド

私は、ファキール・モハメドの息子でアブドゥル・アハッドと申します。ナンガラハル州ソルフロッド郡サワタイ村の出身の四二歳です。

二〇〇三年二月三日に門衛としてPMSに職を得ました。その半年後の八月一日に事務職への異動が決定されPMSが水利事業に使う資機材倉庫の管理助手に任命さ

れ、物品や資機材の納品や出庫の確認や記録等の仕事をしました。その後更にセメント、鉄筋、木材などマルワリード用水路建設に必要な建材や備品の購入担当も命ぜられ、二〇〇八年まで続けた後、倉庫管理責任者になりました。二〇一四年九月一五日に購買委員会（購買係が三社以上の見積りを取り、質と価格の判断をし購買を決定する）に任命されましたが、購買と倉庫管理の二つの業務で忙殺されていたため、PMSオフィスが私の仕事の一部を他のスタッフに割り当ててくれました。現在も購買の仕事は続けています。日本人とアフガン人スタッフが私の仕事に協力してくれるので、とても満足しています。



会計職員と清算や購買準備をするアブドゥル・アハッド氏（中央）

●ワーカー近況報告

索漠とした世に

一服の清水を

PMS現地連絡ワーカー

石橋忠明

埼玉の和紙の里、清流と無農薬野菜の地、小川町で写真展を開いている（宣伝で

恐縮です）。医療関係者も、二〇年来のベテラン会員も来場する。会報も熟読されていると思うが、こちらは一〇年の水路現場の経験をもとに、確立しつつある「ナカムラ方式」の取水システムを説明する。

「この斜め堰、二重堰板方式水門、両側を蛇籠で護岸し、その背面に柳を植樹した主幹水路、送排水門を備えた沈砂池、石出し水制を利用した河道制御、これらが中村医師、PMSが築き上げてきた河川からの灌漑用水路の造成方法で……」。すると「い

や、それはだいたい分かっています。会報も本も全部読んでいますし、DVDも二本とも持っています。」と、つれない返事。

それでは、とこちらも裏話を交えて本腰を入れる。「蛇籠ですが、三mm、四mmの鉄のメッキ線で編まれているのですが、アフガンの水は硬水だし、三年ほどで錆びて崩れる、ここは一つステンレスを使用したほうが得策では、と提言したのですが、ドクターは、私の本業がステンレス屋であるため、売り込みの下ごころと見たのか、或は

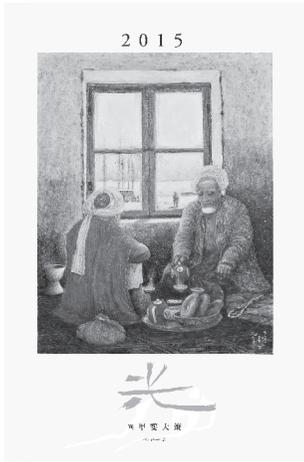
2015年カレンダー

「光」
画・甲斐大策

同封のハガキでご注文下さい

A2判変型(画・7点)

定価:1500円(税、送料込み)



今年も恒例のカレンダーを制作しました。部数に限りがありますのでお早めにご注文下さい。(ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります)。

※代金は後払い。払込用紙を同封します。

何か勝算があるのか、ただニコニコにやいや顔。が、三年経つと、蛇籠に挿し木した柳は、3mほどになり、根っこも同じ長さに伸びて、毛細血管のようにびっしりと石に絡みついて、蛇籠は若干変形し始めてはいるものの、しっかりと護岸壁となりました。すると相手はやっと頷いてくれる。

話は前後するが、事務所現地班のおぼちやんパワー(一部、私を含めヤングパワー)に雨雲もすつ飛んでいった秋晴れの昨日、モデルとなった九州福岡県朝倉の山田堰(斜め堰)を、初めて見学して来た(二〇一四年十一月二十五日)。土地改良区の徳永氏の情熱^{ほとほし}迸るご説明を拝聴しつつ、全長三二〇m、幅一四〇m、落差三mという堰

の「機能美」を拝見し、先人の苦勞を偲んで来た。舟通し、砂吐きのほか、中程を少し窪ませて、流水の圧力を逃がす工夫がしてある。対岸に廻ると、水が、せきあげられつつも、堰にかかる水圧を逃しながら取水口に向かい、余り水が徐々に下段に向かつて無数の小さな滝のように落ちてゆくのが分かる。自然美である。人びとがこれだけ助かると思えば、なおのこと美しさも増す。

以前は、写真展では、斜め堰はこのような説明。「初めは、河に直角に大石を入れていきしましたが、進むにつれ先端の洗掘が激しくなり、進めずに中断、急遽、日本の江戸期の河川制御術を取り入れ、折角投入した大石でしたが、(勿体無いので、)それ

を斜めに置き直し、温故知新を地で行くような作業にかかりました」と、したり顔で言っていた。しかし、今後は実見による技術的裏付けのある説明もできる。そして来場者は、たいいてい帰り際に言う。「頑張ってください」。私がかえす。「お互いにガンベリましょう」。

さて、現地は、山田堰をモデルにしたこの斜め堰などの一連の取水システムにより、新たな用水路建設が始まっている段階である。六五万人がこれまでの一連の水路で食べてゆけるが、更に、アフガニスタン中でのこの方式が広まり、誰もみな食べられるようにと願って已ま^やまない。

水路事業は、文字通り砂漠に水を流し、耕地に変えてゆく仕事だが、同時にまた、昨今の索漠とした世に人心に一服の清水を供する、そんな役割を果たしている気もする。写真展などを通じて、会員のみなさんと、少しでも事業をよき方向に進めてゆきたいと思う。

▼寄付をしてくださる皆さまへ▼

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。

お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承ください。承ります。よう、お願いいたします。

●事務局便り

*二〇一一年一〇月から「9・11」への報復爆撃を続けた欧米軍が、今年で撤退することになっている。米軍の一部は駐留を続けるようだが、ISAF(国際治安支援部隊)を担ったNATO(北大西洋条約機構)軍は、アフガニスタン政府へ治安権限を委譲して年末までに撤退する。

*日本では今秋、「集団的自衛権容認」が閣議決定された。しかし、アフガン戦争そのものが、集団的自衛権(国連憲章 集団安全保障)の行使であることは、あまり知られていない。NATO諸国は、「危機の予防と治安維持」を名目に、米軍の報復戦争に参戦したのである。なかでもドイツの場合は、日本の「未来」を暗示している。湾岸戦争の際、ドイツは拠出金とどめ、それを「小切手外交」と非難された過去がある。そのトラウマからアフガン戦争では、国内の反対を押し切って出兵した。その結果五十数名の兵士が死亡し、さらにドイツ軍基地攻撃の情報をとりに、アフガン住民を巻き込む空爆を米軍に依頼してしまったのである。日本政府という集団的自衛権のなかに「駆けつけ警護」というものがある。海外で活動する邦人ビジネスマンやNGOスタッフを自衛隊が警護救出するといふものである。これは、例えば日本で活動するA国のNGO職員が某国のテロリストに誘拐されたとする。常識で考えても、A国の軍隊が日本国内で救出活動をするにはあり得ない。そのセキュリティはその国の法と慣習に任せるべきである。仮に私たちが自衛隊(米軍の同盟軍)に警護される事態になれば、直ちに武装勢力のターゲットにされる。アフガニスタン

において、これまで日本政府は民政支援に専念してきた。それが日本への信頼であり、現地での活動する私たちの安全保障である。これまでの蓄積を無にしてはならない。

*中村哲医師の著書『天、共に在り』(NHK出版)が「第一回城山三郎賞」(角川文化振興財団)を受賞しました。またアフガニスタンのPMSの治水事業に対し農業農村工学会の国際賞も受賞しました。

*今年には洪水に引き続き、火山の爆発や地震が相次いで起こりました。被災された方々のご冥福と安寧をお祈りいたしますとともに、穏やかな年を迎えられることを希っております。

◎村から

現地連絡班の作業に参加して五カ月になりました。中村先生の講演会の手伝いや、現地報告書のデータ整理・編集などを行っています。事業を理解し現地と一体となるため、学ぶことは多くあります。自分が行う作業や学習ひとつひとつが現地事業に影響する、それは大きな喜びであると同時に、大きな責任でもあります。確実に業務を身につけたいと思います。(S・K)

■現地会計・事務職員を募集しています

勤務地…ベシヤワール会事務局(福岡)及びアフガニスタン
応募資格…中村哲医師の現地活動に関心のある方/三〇歳以下の方(若年層の長期キャリア形成を図るため)
※履歴書・志望動機書をベシヤワール会事務局に郵送して下さい。

会 則

- ①本会の名称をベシヤワール会とする。
- ②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。
- ④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。
- ⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。
- ⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。
- ⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。
- ⑨本会の事務局をFAARAHOUSE(〒八一〇〇〇四一 福岡市中央区大名一丁目一〇―二五 上村第二ビル六〇三号)〇九二―七三一―二三七二)内におく。